

今月の重点活動**■加工業務用野菜 キャベツ・タマネギの生育調査とほ場巡回**

1月11日、肥料試験を行ったキャベツ実証ほ（養老町）の収穫調査をJAにしみのと行った。ほ場での調査では、キャベツの玉の長径、短径及び重量を測定した。今後、調査した玉を予冷庫で保管し、肥料の種類による棚持ち具合、重量の変化を測定し、次年度以降の施肥体系についてJAにしみのと検討していく。

また、1月30日、31日には、キャベツとタマネギの栽培ほ場をJAにしみの及びJA全農岐阜の関係機関と巡回した。キャベツでは今後の出荷量を把握するため収穫進捗を、タマネギでは生育状況を確認した。

キャベツでは、晩生品種の生育が進み、収穫を前倒しており、今後の出荷量が少なくなる見込みであった。

タマネギは寒さのため、葉の先端の変色が見られるなどしたが、現状では順調に生育している。今後、タマネギでは、アザミウマやべと病に注意が必要な時期となってくるため、農林事務所では防除等対策についてJAにしみのとともに支援を行っていく。

**西濃の農業・農村を支える人材育成****■西濃ブロック女性農業経営アドバイザー味噌玉づくり研修会の開催**

1月18日、大垣市西部研修センターにて、アドバイザー11名、若手農業者が2名参加し、（株）芋慶から講師を招き、味噌玉づくり研修会を実施した。味噌玉づくり研修後には、女性リーダー育成に関する研修として、家族経営での対話力に関する動画視聴を行った。

また、今回の研修会では、女性農業経営アドバイザーの活動を広く知ってもらうため、JAいび川、大垣ケーブルテレビの取材も受けた。

近年、西濃ブロックでは女性農業経営アドバイザーが減少していることから、農林事務所では、新規会員の確保につなげられるよう、引き続き活動を支援していく。



【味噌玉づくり研修会の様子】

安心で身近な「西濃の食」づくり**■小麦 最近の生育状況**

海津市では、小麦の生育状況を把握するため、13か所の調査ほを設け、月2回生育調査を行っている。本年度は播種時期から12月上旬までの気温が平年より高く推移したことから、平年より早く生育が進んでいたが、12月中旬以降の気温が平年を下回る日が多くなり、現在の生育は停滞気味となっている。

1月下旬以降は平年を下回る気温と予想されていることから、農林事務所では、引き続き生育状況を把握し、適期に作業がされるよう、生産者・関係者に対して情報提供を行っていく。

【生育状況（1月上旬）】
（品種：さとのそら）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 第48回岐阜県いちご共進会地方審査の実施

西濃地域のいちごは、大垣市・海津市・養老町・輪之内町の生産者50戸で土耕栽培を主に8.2haが栽培されている。

1月17日と19日に、第48回岐阜県いちご共進会の地方審査が実施された。各部会から推薦のあった18名のほ場について、審査長である西濃農林事務所長ら審査員3名で、生育状況や管理技術について審査を行った。栽培品種は「濃姫」「美濃娘」「とちおとめ」で、今年作は、12月の低温を受け、草勢がやや弱いほ場が目立った。

2月には、県審査及び実物審査が行われ、7月には審査結果の発表が行われる予定である。

農林事務所では、上位入賞できるよう、栽培技術や管理技術について支援を行っていく。



【地方審査の様子】

■小松菜 アザミウマの新規農薬登録試験が開始

神戸町の葉物野菜産地では、施設開口部の防虫ネットの目あいよりも細かい微小害虫（アザミウマ）の防除に苦慮している。

今年度、関係機関（農業技術センター・JAにしみ）と連携し、モロヘイヤ（マイナー品目）で農薬登録試験を6月に実施した。これをきっかけに、主品目である小松菜でも同様に産地が全面協力する合意が得られ、農林事務所では準メジャー品目の農薬登録要望を行ってきており、このたび2剤の農薬について、試験を行うことになった。

下宮青果部会協議会小松菜部会からは、「用意するほ場面積は」「播種時期はいつか」「生産者が対応することは」等、様々な問合せがあり、今後、関係機関が連携し、試験・調査計画を策定していく。



【アザミウマ被害状況】

■きゅうり 半促成・促成栽培のほ場巡回と研究会を開催

JAにしみの海津胡瓜部会は、1月13日に半促成・促成栽培研究会をJAにしみの海津中支店で開催した。研究会の前には、種苗会社・JAにしみの・農林事務所の関係者では場巡回を行い、9月定植の促成栽培及び12月9日から定植が始まった半促成栽培の生育状況を確認した。

促成栽培では、12月に寡日照で夜温が高かったため、出荷量が落ち込んだが、その後1月は日照時間も多くなり生育は回復基調となっている。また、半促成栽培は1月の好天で全般に順調に生育している。

研究会では、生育や品種特性を踏まえた栽培管理方法について説明が行われた。農林事務所からは退緑黄化病などの病虫害対策について、天敵や温度管理など総合的防除について情報提供した。さらに、野菜の衛生管理指針を踏まえ、「ぎふ清流GAP」の取り組みについても啓発した。



【ほ場巡回の様子】